

## 第2回 尼崎市総合計画審議会 (拡大) 専門部会 議事録

日時	令和3年3月9日(火) 18:30~
開催場所	小田南生涯学習プラザ ホール
出席委員	青田委員、稲垣委員、梅谷委員、加藤委員、川中委員、瀧川委員、武本委員、花田委員、久委員、室崎委員、小坂委員、松原委員、勇委員、中西委員、仁保委員、古川委員
欠席委員	堂園委員、堀田委員、八木委員
事務局	塚本総合政策局長、中川政策部長、橋本都市政策課長、都市政策課職員

### 1. 開会

- 資料の確認
- 議事録署名委員の指名

### 2. まちづくり構想について

(部会長)

「まちづくり構想」についてですが、前回いただいた意見を反映させながら、現計画よりも尼崎の特徴を表現し、尼崎らしさをどのように盛り込むべきか事務局でも苦労しているところです。

今回は、全体の体系について議論できればと思います。

(事務局)

<資料説明>

(部会長)

(資料第1号)「『ひと咲き まち咲き あまがさき』の位置づけと尼崎らしさの活用について」(以下、「資料」という。)の1ページで将来像の全体を示しています。まず、この将来像の立てつけがこれでいいのか議論していただきたいと思います。

(委員)

資料にある「ひと咲き まち咲き あまがさき」のイラストの5つの色に、5つのキーワードを当てはめていますが、前回の専門部会でも申し上げたとおり、持続可能性は全てに対してかかるもので、目標があってそれを持続可能にしていくためにどうしていくのかということを見ると、他の4つのキーワードとは違ってくるので、今「持続可能性」としている赤の部分は他のキーワードが入ってもいいのかなと思います。

また、「暮らしやすさ」というと、住環境という意味合いが大きいのかと思いますが、尼崎の人の「自分らしく生きていく」など、人を主体とした「学び続けていく」とかが入っていないと感じたので、「わたしらしく生きる」などが入ったほうがいいのかと思いました。

(委員)

前回の専門部会のなかで、「暮らしやすさ」は生活で、「活力」は産業、それらをアップしてくために使う要素が「包容力」や「市民のチカラ」で、最終的に目指すのが「持続可能性」だと思うので、平坦ではなく、少し階層を変えたような提示の仕方はいかがでしょうかと申し上げました。

しかしながら、今回の資料をみて「ひと咲き まち咲き あまがさき」の5つにそれぞれキーワードを当てはめ、まず、最初にそれを示すのはいいと思いました。ただ、その後の展開の仕方、今の段階では一つひとつが平坦にでているものを、少し組み合わせや構成を考えていただけるといいのかなと思います。

(部会長)

それぞれの関係性を表現できればと思います。今は横並びに並んでいるけれど、並列じゃないということですね。

(委員)

資料1ページにある、将来像の全体にあるそれぞれのキーワードをみて思うのは、「尼崎らしさ」がコンセプトだったはずが、言葉の抽象度があがっていくごとに普通の言葉に置き換えられているような気がします。

資料2ページの「市民のチカラ」を表すフレーズ案として「ミナギル」や「スイッチ」、「ジブンゴト」などが使われていますが、これらが尼崎らしさを表しているのかと、ひっかかってしまいます。言葉がきれいになりすぎてしまっているのも、もっと違う表現があるのではないのでしょうか。

(部会長)

その辺りは2ページ以降で、具体的にどのようなフレーズがあるか議論していただきたい。

(委員)

新総合計画も現総合計画のような体系をイメージしているということでしょうか。

(事務局)

現総合計画は、4つのありたいまちに向かって、色んな施策を絡み合わせて取組を進めています。現段階の案ですが、新総合計画では「ひと咲き まち咲き あまがさき」を将来像に掲げ、その状態を示す5つの尼崎らしさと施策がマトリックス型に絡み合っていて取組を進めていくというイメージをしています。

(委員)

私の理解では、ツリー型の対照はマトリックス型ではなく、セミラティスという格子状のものになると思うのですが、これまで、総合計画審議会のなかでは、ツリー型の対の概念としてはマトリックス型を扱うことが多かったのでしょうか。

マトリックス型は企業でも活用していますが、マトリックス型は2人のポストが存在してしまう、いわゆるワンマン・ツーポストシステムと言われており、2つのポストを抱えて施策を展

開するというのは行政文化ではないところなので難しいと思います。実効性を高めるには、行政の改革が進まなければならないので、マトリックス型をどこまで活用できるのか疑問に感じます。

(事務局)

もちろんツリー型とマトリックス型だけではないと認識しておりますが、本市では、第4次総合計画まではツリー型を採用しており、現総合計画策定の際に、連携を意識するためにマトリックス型に変更しました。

マトリックス型は、ご指摘のとおり、構造が複雑となり、しっかりと優先順位を決めるなど、マネジメントをしっかりしなければならないなどの難しさがありますが、本市のように複雑に課題が絡み合い、様々な連携を意識した施策を展開していくためには、特定の課題に迅速かつ効果的なツリー型よりも、マトリックス型がよいのではないかと考えています。

(部会長)

ツリー型の対はマトリックス型ではないかということですが、セミラティス型はそれを提唱したクリストファー・アレキサンダーの時代にはなかった、今でいうネットワークを意味していると思います。

そう考えると、セミラティスを2次元の紙の上で表現するのは難しいです。ネット上であれば、自在にリンク先に飛ぶことができますが、2次元で表現されているものを3次元、4次元で表現するためには、マトリックス表を何枚も作り、色々な切り口でどのようにつながっているか表現するのもひとつですが、そうなってくると複雑で表現が難しいと思います。

(委員)

資料をみてフォント等を効果的に使って、ぱっと視覚的にはいってくるように工夫されていると感じました。

「ひと咲き まち咲き あまがさき」のマークについても色分けをされていていいと思います。色分けをすることは、埋もれてしまう個性を印象付けるのに、非常に効果的であると世間的にも認識されています。したがって、尼崎も色でテーマを掲げているのは良いなと思いました。

資料1ページにある「市民のチカラ」を表すフレーズ案「ミナギル。尼崎市民のチカラ」については、カタカナと句読点を効果的に使用して活力とエネルギーを表現したり、「包容力」を表す「ほっとかない。をあたりまえ」については、「ほっとかない」を平仮名で表現し、尼崎の庶民的で、困っていたら助けるような雰囲気を表していいなと思いました。

ただ、「持続性」については引っかかっています。「まちの未来をジブンゴトに」についても、「ジブンゴト」そのものは良いと思うが、持続可能性にはつながりにくいと感じているので、工夫が必要だと思います。

(委員)

この5つのキーワードと、それぞれを表す一言は非常に分かりやすく感じますが、「活力」と「市民のチカラ」は、どちらも「力」であります。どう違うのでしょうか。「市民のチカラ」でピンチをチャンスにかえる力は、「活力」にはならないのでしょうか。

「包容力」も力がついており、重複するような、区別しづらいキーワードはどのようなかなと思いました。

(委員)

5つの尼崎らしさについて、4つは分かりやすいと思いますが、「持続可能性」については、市民にはピンとこないように思います。

持続可能性は重要な言葉ですが、市民にも分かりやすいよう計画のなかで丁寧な説明が必要だと思います。

また、ブランディングも含めて考えているのであれば、「将来性」も尼崎の特徴になるのではないのでしょうか。交通が発達しており今後も発展が期待できる、住みたい街ランキング等の上位も占めていることは将来性のアピールにもつながるかなと思います。

(委員)

新総合計画のフレームについて説明がありましたが、「ありたいまち」の下に5つの方向性を示している事については賛成したいと思います。そのうえで、各主体の役割を構想に入れていくのがいいのかなと考えています。

また、基本計画については行政が活用するという点についても賛成です。ただ、「まちづくり構想」で役割を示すとすると、大きなくくりでの表現になってしまうのではないかと感じているので、丁寧に考えていく必要があると思います。

なかでも、行政の役割をどのように表していくのかは大切だと考えており、今後の総合計画が向き合う10年間は厳しい局面になると思いますので、その時、行政がどのように役目を果たしていくのかという羅針盤として示さなければならないと思います。

行政として、ここは守っていかないといけないという役割や責任を明記しているかたちで議論していくほうがいいかなと思います。

それぞれのキーワードの階層については、みなさんのおっしゃるとおりだと思います。キーワードについてはこれまで議論してきたものなので、表現はともかく異論はありませんが、「活力」は、なんの活力なのかと思うので、「市民のチカラ」のように、「産業のチカラ」などにすると整理されるのかなと感じました。

産業の活力については、インダストリー4.0などの流れにどのように対応していくのか、そこに先んじて進めていくのか、新しい時代を切り開いていく産業が生み出されていくまちにしたいという方向性などを示されたほうがいいのではないかと思います。最近でいうDXというような流れも入れていいのかなと思います。

マトリックス型については、対応する行政組織をどのように作っていくのかとありますが、同時に5つのまちの様子をつくるために、地域の自治のシステムをどのように作っていくかについても方向性を示していかなければならないと思います。

(部会長)

現総合計画については、「まちづくりの進め方」を各主体の役割にもってきていますが、それぞれの主体の役割をどのように連携して、その目指すべき姿を実現していくのかは、現総合計画の「まちづくりの進め方」みたいなものが新総合計画では基本構想の最後にあるほうが、収まりがいいのかなと思います。

将来性であれば、資料の2ページ以降では、過去から現在、そこから展望にかけて表現しています。そのなかには、今芽吹きの状態のものや、2、3年後にでてくるものなどが欠けているのではないかと思うので、そこを議論できれば将来像みたいなのも展開できるのかなと思いました。

(委員)

「ありたいまち」と5つの尼崎らしさですが、5つのキーワードについて、これまで議論してきた人やまちづくりに関わってきた人にはわかると思いますが、一般市民がみると、これだけでは具体的なイメージがしにくいと思います。

例えば、「持続可能性」であれば、防災や環境、「活力」には産業、「包容力」には福祉や教育など、親和性の高い分野など、具体的にイメージしやすい例示があるといいのかなと思います。

それぞれは横断しているものだとは思いますが、きっかけとなる一般的な分野の例示があればいいかなと思います。

今提示されているイメージはバラバラに見えるので、産業の「活力」が「市民のチカラ」につながって、それが「包容力」をもってまちの人を支えていく、そういうまちはみんなが「暮らしやすく」なり、そんなまちは将来も続いていく（「持続可能性」）だろうというような、循環するようなイメージが表せればいいかなと思います。

このイラストを活かしつつ、階層なのか、循環なのか、それぞれの要素の関連性がイメージしやすいようなものができればいいかなと思います。

(委員)

さきほどの委員の意見に賛成です。この審議会を長くやっているなかで、そもそも誰に向かって計画なのかと今の意見を聞いてはっとしました。

ここで議論してきた方々はこれを見てわかりますが、はじめて見た人にはわからないのかなと。若い人にも、ここのつかみのところをみたときに、「尼崎いけるな」と気づいてもらえる表現があったらいいかなと思います。日本の若者のなかで希望をもっている割合はOECD（経済協力開発機構）加盟国のなかで最低です。そういう若者が、尼崎おったらおもしろそうやなというようなつかみがあればいいかなと思いました。

例えば、「ひと咲き まち咲き あまがさき」のイラストの全体像は、「楽しいまち、尼崎」でいいんじゃないかなと思いました。「楽しい」には、色んなことが含まれています。これは、さきほどの委員の発言に刺激されての発言ですが、これをぱっとみて、尼崎ええなど、尼崎のまちは楽しいぞというのが欲しいと思いました。

(部会長)

資料1ページ目のところについては、出た意見を事務局で整理して、考えさせていただきまますので、引き続き2ページ以降について議論していきたいと思います。

それぞれ5つのキーワードに対して、キャッチフレーズをつけているので、これは仮ですが、本日はひとまずこれで議論していきたいと思います。

まず、「市民のチカラ」についてご意見をお願いします。

(委員)

「3 展望」は、10年後にありたい前向きな姿とのことですが、「希薄化する地域コミュニティに対応して」というのはマイナスイメージなので、プラスになる言葉を入れていただいたほうがいいのかと思います。

(部会長)

現状の課題を記載しないほうが良いということですね。

(委員)

「2 今の取組」に「学びあえる、活動できる環境・仕掛け」とありますが、みんなの尼崎大学ができて、繋がり場になったことが大きかったので、飛び込めばつながっていきけるというのが分かるフレーズがあれば、ジブンゴトにしていけるんじゃないかと思いました。

(部会長)

プラットフォーム機能ときいてもピンとこないのが、市民に分かりやすい言葉が良いのかもしれないですね。

(委員)

「1 受け継がれてきたもの」に、「公害を乗り越えてきた市民・行政・事業者の団結力」とありますが、具体的にはどのようなことでしょうか。

(事務局)

公害問題については、行政だけでは克服できなかったのが、事業者や市民と協力したことで、乗り越えることができたということで団結したとさせていただきます。

(委員)

その当時尼崎市で育ったが、あまりそのように団結した実感がありません。

(事務局)

高度経済成長期で、阪神間の中核をなす工業地として発展してきましたが、公害問題が重大な問題となって、事業者さんと一緒になって公害を克服し、事業者に公害に配慮した取組や環境に配慮した製品を作るなど、行政とタッグを組んでやっていくなかで、環境モデル都市に認定されるまでになり、それによってイメージも改善されたという一つの成果を示しています。

(事務局)

補足いたしますと、例えば、今でも本市には公害健康補償課という部署があり、公害のもとになる煤煙を排出してきた企業からの寄附により基金をつくり、公害認定患者の支援をしてきました。

また、国道43号線公害訴訟については、市民団体が団結して、行政とタッグをくんで、成果を上げてきたというエピソードなどがございます。

(委員)

団結というより、緊張感がある信頼関係かなと思います。団結というと、言葉としては強すぎるかなと思います。

また、乗り越えたと過去形ではなく、現在も公害の問題には向き合っていますし、公害問題が投げかけた暮らしや産業のあり方が転換したのかということそうではないと思います。

確かに当時からすれば、改善されていますが、決して過去の問題ではないということ踏まえて表現を変えたほうがいいと思います。当事者が読んだときにどう思うか、大切な歴史だからこそ丁寧に記載してほしいです。

(部会長)

有識・議員部会のなかでは、歴史博物館の辻川さんに話してもらいました。

2つの理解を曲げてしまうのではないかとということです。公害だけなのかということと、本当に行政は市民・事業者と団結したのかということ。

例えば、尼崎には農民運動や労働運動も非常に盛んで、地域の人たちが自ら地域の社会問題にかかわったという歴史があることを表現したかったのではないかと思います。具体的に言うと、このあたりは地域の有力者が、今でも社会のためにいろいろやってくれる小田会がありますが、尼崎の市章のなかに小田の小がはいついて、それは、尼崎に吸収合併されたのではなく、対等合併だという小田村の誇りです。そういう自治力というのが様々な時代、様々な場所にあったんだと、そういう話だと理解しているので、そのようなことがわかる表現に変えていただきたい。

(委員)

資料の「1 受け継がれてきたもの」、「2 今の取組」、「3 展望」を分かりやすく表現すると、「1 振り返ると」、「2 今は」、「3 これからは」という言葉になるんじゃないかなと思います。振り返ると色んな尼崎の歴史があつて、それを知ったうえで今がある。それがわかれば未来が見えてくるという書き方だと思うので、みんなが読みやすくわかりやすいような言葉を使ってもらいたいです。

(委員)

「市民のチカラ」は、表現的に元気がでるといえるか、意思が盛り込まれる表現でないか、客観的にこういう状態だといわれても、伝わり具合で行くと、市民自らが展望をもってやっていくんだ、というのは難しいと思います。

(部会長)

具体的にいうとどうでしょうか。

(委員)

具体的には、わからずに言っていますが、躍動感というか意思がこもるような表現がほしい。

(部会長)

事務局の案は、10年後の状態を表していますが、今おっしゃったのは、その10年間のプロセスになると思います。10年後を表すのであれば状態となり、プロセスを表すのであれば ing なので、どのような表し方がいいのか議論しないと、事務局に対しても変更してくれとは言えないと思いますが、いかがでしょうか。

(委員)

構想の位置づけからすれば、状態を書くべきかと思います。どのように進行していくかは、その時々によって変わるので、書きぶりについてはともかく、状態を表していると理解しています。

(部会長)

状態の方が評価しやすくなるので、書きぶりに工夫は必要かと思いますが、状態とさせていただきます。

(委員)

「希薄化するコミュニティ」だけでなく、「地域の活性化」も太字にすべきかなと思います。フレーズ案のなかでいうと、「まちづくりにスイッチを」、「まちづくりをジブンゴトに！」は、反対に言うと、今できていないように解釈できてしまうので、「ミナギル。尼崎市民のチカラ」が一番いいと思います。

(委員)

資料1ページにある全体像のイメージをみると、5つのキーワードは、「暮らしやすさ」、「包容力」など、尼崎らしさはどこにいったとなりますが、それぞれの様子を表すフレーズ案になると尼崎らしさがにじみでる気がします。5つのキーワードがなくても成り立つんじゃないかなと思うくらいで、ちょっと長くすることで、尼崎らしさがにじんだり、平たい言葉にすることで、子どもでもわかるなと思いました。

(委員)

「希薄化する地域コミュニティ」をプラスイメージでと申し上げましたが、後半に「地域の活性化」とあり、「活力」のところと関係づけられてしまうかもしれないので、コミュニティとしてのつながりを前向きな姿で表現してあげたらいいかなと思います。

(部会長)

「1 受け継がれてきもの」に「人情味のある市民性」とありますが、それを受けるのが「3 展望」にないので、人のチカラをより高めて、それをまちづくりにつなげていくというような先ほど委員がおっしゃった、つながっていくというのが、「3 展望」にあると、人情味につながっていくのかと思います。「1 受け継がれてきたもの」、「2 今の取組」、「3 展望」がうまくつながっているかもしれないのでチェックしていただきたい。

(事務局)

さきほど「尼崎らしさ」についてご意見がありました。事務局で「らしさ」とは何かということ色々と考えていたところ、「らしさ」とは、「特長」だけでなく、「状態」を表す言葉であるということが分かりました。そういった中で、我々としては、将来像とする「ひと咲き まち咲き あまがさき」の状態をイメージできないという課題があったことから、これらを組み合わせて状態を示す5つの尼崎らしさを使って「ひと咲き まち咲き あまがさき」を表現しようと、今回、資料にありますようにフレーズ案をご提示させていただきました。資料にある成り立ちやフレーズについてのご意見と合わせて、その根底にある「ひと咲き まち咲き あまがさき」を表す状態として、現在お示ししている5つの「特長」でよいのか、また、まちの展望としてその特長がどのような状態になることが良いのか。といった部分についてもご意見をいただきたいと考えております。

また、5つの特長をキーワードとしたアイコンは、共有に向けてのわかりやすさから作成しておりますが、現時点では具体的にどのように使っていくか悩ましいです。ご指摘のとおり「活力」が重複しているというご意見などもいただいており、表現を工夫しながら、最終的にどのように活用するのか判断していければいいかなと思います。

(部会長)

フレーズは、「3 展望」を一つにまとめてどのような言葉で表したらいいでしょうかということですね。

「ミナギル。尼崎市民のチカラ」が良いというご意見がありました。私としては、つながるという言葉を入れて「ミナギル。ツナガル。市民のチカラ」でもいいのかなと思いました。

(委員)

トヨタは、新しいまちをつくるとしていますが、コンセプトは「つながる」だそうです。全ての市民、産業、くらしも若者、お年寄りもつながるというのはすごく大切なことなので、つながるというのはすごく良いフレーズだと思います。これからの新しいまちは、人だけじゃなくて、モノとつながるということも考えていかなければならないので、つながるというのはいいキーワードだと思います。

(部会長)

仮に、「ミナギル。ツナガル。市民のチカラ」にさせていただいて、次回チェックしていただきますでしょうか。

では、次に「包容力」についてご意見をお願いします。

(委員)

先日、母子家庭の貧困について議論した際に、心の貧困、体の貧困が経済的貧困を引き起こしていると聞きました。誰にも相談できない、相手に知られてしまうと、生活弱者というネガティブな視線でみられてしまうということがあると。「いくしあ」などの行政に駆け込める気持ちを持っている人はいいいですが、自分から言い出せない人に対しても誰一人取り残さないとアピールできるフレーズにできればいいなと思います。

「ほっとかない。誰一人取り残さない」、「オールあまがさきで。ほっとかない。をあたりま

えに」などに言い換えれば、強いアピールができるのかなと思います。

(委員)

「最後の一人」という言葉もいいかと思う。多様性を認めるとか、そういう表現があればいいかなと思います。上からではなく、そういう表現を入れれば、厚みが出るのかなと思います。

(委員)

ひとつずつフレーズを立てていったほうがいいのでしょうか。

「誰一人取り残さない」といえばSDGsで、「ほっとかない」といえば、社会福祉協議会です。事務局で作っているのであれば、すごいコピーライティングだと思いますが、最後の方は若干息切れしているように感じます。

ただ、これまでの審議会の議論をここまでまとめ上げていて関心しました。

(部会長)

今回の意見を反映して、次回事務局から提示できればと思います。

(委員)

議論からはずれてしまいますが、聞かせていただきたい。

SDGsの11番の目標には、「住み続けられるまちづくりを」とあり、つまり、災害等があっても、住み続けられるまちづくりが必要ということの意味している。

持続可能性の「3 展望」には、リスクマネジメントについて記載があるが、まちづくり構想のなかでも、安全やセキュリティについて、もう少し全面に出していけないといけないのではないのでしょうか。

尼崎市の浸水想定区域は広範囲に及んでいますし、南海トラフも次期総合計画の期間中に起こる可能性も高いので、「住み続けられる」ということを前提としたレジリエンス、強さ、強靭力などをまちづくり構想のなかで、大きな扱いをしたほうがいいのかなと思います。

(部会長)

持続可能性のページでは、社会基盤の維持管理と、リスクマネジメントの記載しかないので、それだけでは住み続けられないよねとなるので、そこを膨らませたら、違う表現が出てくるのではないかなと思います。

(委員)

活力について、「3 展望」は、10年後の姿であればこれでいいと思いますが、「1 受け継がれてきたもの」にある、「住工混在が生む地域と企業の密接な関係」という記載については、「企業」といつてしまうのか、広げて「産業」というか、もともとその部分を支えてきた大企業は湾岸部からいなくなってきたので、活力のところが表現が堅いとおっしゃっていましたが、そのとおりかなと思います。「商売人気質」というのも利潤追求型みたいで、あまり産業界としてはうれしくないかなと思いますが、「新旧混在の魅力」はあるのかなと思います。

フレーズ案については、「産業とともに未来を変える」は、住みやすい尼崎を目指すならいいのかなと、「産業のチカラでまちに元気を」もいいかなと思いますが、「変革を創出する」については産業界としては重荷に感じてしまいます。

また、包容力のフレーズ案ですが、「誰一人取り残さない」というのは上から目線であまり好きではありません。

活力、包容力ときて、市民のチカラはカタカナになっているので、表現方法に一貫性がないなと思いました。例えば、土農工商を「サムライ農工商」といっているような、表現方法がばらついているように感じます。うまく言えませんが、やわらかくてキャッチーなもので、キャッチーな言葉の色合がある程度足並みがそろうと、すこし伝わりがいいのかなと思います。そう思うと、このキーワードはいらないのかもしれませんがね。

(委員)

産業というどうしても重たく感じます。産業といわれると自分と関係あるのかなと思ってしまうので、働くとか、仕事とかいう言葉だとイメージがしやすいかなと思います。産業という意味合いとしては、まち全体を含むものだと思いますが、「働くことがおもしろいまち」とか、子どもたちが将来大人になることがしんどくないイメージが浮かぶようなフレーズ案になると、次世代の育成や産業の活性化についてもつながるのかなと思います。大人もプラスのイメージを持てるものもいいかなと思いました。

(部会長)

私も同じ思いで、産業ばかりが表にでているので、人も元気になるとか、もっとシンプルに、「人も仕事も生き活きと」というような感じだといいかもしれないですね。

(委員)

「誰一人取り残さない」が上から目線というのは私も同じように感じています。「誰一人、ほっとかない。をあたりまえに」にしてしまうと、リズムが崩れるので、やはり「ほっとかない。をあたりまえに」が一番いいかなと思います。

また、5つのキーワードがなくてもいいんじゃないかという意見がありました。わたしはあったほうがいいと思います。持続可能性については変えたほうがいいし、活力も一般的すぎるとは思います。視覚に対する分かりやすさは、色とワンフレーズ(6文字くらい)で尼崎らしさを表現しているのほうがいいと思いますので、残しておいたほうがいいかと思っています。

(委員)

活力の「3 展望」にある「エネルギー利用のありかたやシステムの導入」とありますが、今ある省エネや新エネルギーなどをシステム導入しようと、受け身の感じになっていますが、尼崎の経済力を考えると、グリーンリカバリーなど、技術や新しいエネルギーの市場を創出するというようなことを打ち出したほうが展望らしいのかなと思います。

産業という経済というのが分かるのかなと思いますので、産業の力で経済をつくるというような形が良いのかなと思いました。

(委員)

部会長がまとめられました。産業の将来については、最終的には“人”に尽きると思いますので、並記したほうがわかりやすいかなと思います。そういう意味では、「人を育てる」とか産業というもののづくりに特化したイメージがあるので、もう少し広い意味で経済、「経済を創る」などもいいのかなと思います。新しく生み出していくメカニズムが非常に重要で、尼崎はずっとやってきたので、そこに人を加え、「人を育てる」「経済を創る」といような表現があると分かりやすいかなと思いました。

(委員)

経済という言葉がでましたが、市場経済的な活性化を促していくことも大切ですが、社会的連帯経済の領域をどのように活性化させていくのかについては、これから社会的包摂を進めていくかについても重要な問題だと思います。そういう部分での産業をどう育てていくのか、活躍しやすい土壌を作り上げていくのか、新しい経済のあり方を展開していく、示していくのも大事なかなと思っています。

(委員)

私は専門が防災なので、南海トラフが気になります。臨海部はかなり被害を受けると思いますので、臨海部の活性化はどうするのか、産業都市として発展してきた尼崎がどう変わるのか考えると、事前復興で臨海部を活性化するとか、事前復興の考え方を入れてもいいのかなと思います。

(部会長)

そのあたりでいうと、土地利用計画についても考えなければならないと思います。どうして、臨海部に工場が多かったかという、そういう時代だったからであって、そういう時代でなければ臨海部に産業の拠点が集まる必要はなく、ソーシャルビジネス、コミュニティビジネスの観点で言えば、住宅とまじりあって仕事場が出てくるはずなので、土地利用構想的にも、住商工をどのように再配分していくのかというのもこのベースになるのかもしれないかなと思います。

(委員)

活力の「3 展望」のところに、産業・雇用をつくり出すという表現もあっていいのかなと思いました。

(委員)

「働く」とか分かりやすい言葉になるのもいいかなと思います。部会長のここに住んでいる人が分かるのもいいかなと、また、働く場もここにあるんだというのも分かればいいかなと思います。

(委員)

地域内経済循環といって、この中でお金がまわっていくというのを目指すというのはどうでしょうか。

(委員)

活力の「3 展望」で、「人材が育ち、市内で」とありますが、「市内で」はいらぬのではなぬかなと思ひます。

(部会長)

先ほど「変革を創出する」というのはどうなのかというご意見がありました、これを展望にまわしてしまふといいのかなと思ひました。従来から変革も創出もあるので、DX とかが入ってくるのかなと思ひます。

それでは、次に持続可能性のところ、ご意見をお願い致します。住み続けるというのがここにあつてもいいのかなという意見がありましたたがそれも含めてお願い致します。

(委員)

「3 展望」で、脱炭素化を実現するとあり、活力の再掲となつていますが、これは、事業者がやつていくことで、市民レベルでやつていくにはピンとこぬかなと思ひます。持続可能性で再掲するのであれば、市民レベルでこれならできるなというものを書くべきぢやなぬかなと思ひました。例えば、暮らし方の中で、自動車の使用を控えるとか、そういったレベルのもので、これならわたしもできるということに置き換えたほうがいいかなと思ひます。

(部会長)

シンプルにいうと、「みんなで脱炭素社会を実現する」という感じですかね。

(委員)

「3 展望」で、エネルギー利用の在り方で脱炭素を実現するためには、まちのシステムを変えていかなければならぬので、そこが出てきていないと思ひました。あと、みんなで取り組むということも表現されていないのでそのあたりを加えていただきたいです。

また、5つあるキーワードのなかで、持続可能性は4番目にきていますが、5番目に来るべきぢやなぬかなと思ひます。

(委員)

「3 展望」の対応関係をみると、行財政改革の展望がこれだと見えないなと思ひます。具体的にどういふ展望を書くべきかという、2040年のときに選択肢をどれだけ残せているかだと思ひます。持続はしているけど、道はこれしか残っていないという状況は辛いので、10年後の行政の方も行財政改革を進めていくときに、選択肢が残るように進めていくことが大事だと思ひますので、選択肢が残っているように何を実現したいか見えたほうがいいかなと思ひました。

(部会長)

先程の委員の「住み続ける」を解釈して、「住み続けよう。ずっと尼崎に」もいいんじゃないかなと思ひます。そうすると、転出する人を引き留めることにもなるし、市民がたくさんいたほうが、持続可能性のまちづくりに力を発揮してくれる人もいると思ひます。

SDGsは、分かりやすくいうと、環境と経済と社会の3つがうまく融合して持続可能な

社会をつくるということなので、この3つが展望のなかにバランスよく入っているべきじゃないかと思います。そう考えると災害、インフラ整備に偏っているので膨らましていただきたいです。

また、感染症の拡大もここに入ってくるんじゃないかと思います。コロナ禍の問題の記載がないので、入れるとしたらここかなと。さきほど委員から経済の仕組み、構造全体を見直してはどうかとありましたが、今のようにマネタリー経済に頼っていると、パンデミックのときに経済が止まってしまいます。お金がまわらなくてもみんなが暮らし続けられる社会を作っていくというのが、持続可能性のところで見直す話になると思いますので、持続可能性を膨らますと見えてくると思います。

(委員)

フレーズ案について、「ジブンゴト」は、なんとなく言葉としてしっくりこないかと、持続可能性としてもリンクしないと感じます。「住み続けようみんなの尼崎」であれば、持続可能性にもリンクするし、すごく良いなと思いました。部会長の意見を聞く前は、「咲かせ続けよう」というのも、ひと咲きと持続性につながっているのでもいいかなと思いました。

感染症のこともぜひ入れていただきたいです。

(委員)

5つの尼崎らしさをみていて、持続可能性だけが浮いて見えるなと思います。SDGsの言葉を入れたいという思いはありますが、夢見る力とか、市民にとって身近な言葉に置き換えられたら良いなと思います。

(委員)

「持続可能性」という言葉は、持続しないといけないので、可能性をいれると持続しない可能性もあるんじゃないかなと思ってしまいます。

(部会長)

すんなり「持続性」でいいかもしれないですね。

(委員)

持続可能性はSDGsが始まる前から、特に環境の分野で、現在のままのわたしたちの暮らしだと、持続不可能な未来があり得るのかというところからでてきた言葉で、可能になるのか不可能になるのかの選択を今わたしたちは問われ続けているので、「持続可能性」を使わないのであれば、使わないなりの意図をもって使わないという判断をしなければならないのかなと思います。

(部会長)

持続性が可能になるからサステナブルというので、「持続性」でいいかなと思います。

(委員)

「持続」とか「続ける」という言葉だけを入れちゃうと、今までどおりを継続するという

イメージが前に出てしまう気がして、今までのままではいけないので、新しいことをしないといけないから、「3 展望」にも一歩先のという新しいことを、前向きな意味でフレーズにも入るといいのかなと思います。「住み続ける」も、今にしがみつくとというイメージもあり、未来の感じが削がれる気がします。未来を感じられる言葉と住み続けるとうまくバランスがとれるようなフレーズがあればいいのかなと思います。

受けつがれてきた過去から時代に合わせて変貌を遂げてきた対応力が尼崎にはあるので、それを今の困難な状況に対しても活かしていくというところで、乗り越えていく、一歩越えていく、一歩先に気持ちをもっていくというのがこの尼崎をいい形で持続させていくのかなと思います。

(委員)

先程の委員に賛成で、住み続けるというのは、このままずるずると聞こえます。行動経済学的に言えば、選択するということが、選択するのはあなたの意思で、選択するもしないもあなたの意思だけど、尼崎を選択してね。というイメージのほうが、上から目線ではないのかなと思います。あなたの意思を尊重するけど、意味としては、サスティナブルなそんなイメージにはならないかなと思いました。

(部会長)

川西市の公共交通を考えている検討グループが「あなたの行動が未来をつくる」というフレーズを考えました。あなたがバスにのらなければあなたの地域からバスは消えていくんですよというアナウンスなのかなと思います。

それでは、暮らしやすさに移ります。

(委員)

「ご機嫌な」という言葉が出てきますが、この意図とはなんでしょうか。

(事務局)

本市の定住転入促進のサイトがあり、そのキャッチコピーが「ごきげんさんに暮らすまち」で、ここから拝借しています。

(部会長)

ご機嫌さんと、ご機嫌なではニュアンスが違いますね。

(委員)

「3 展望」のところで、自転車は、都市課題から都市魅力になるとありますが、自転車は今後ずっと都市課題だと思っています。例えば、JR尼崎駅の中川地下道で、自転車を降りずに走行しているのがよく見受けられますが、幼児の声でアナウンスを流してもやめない実態があります。市内で自転車の専用レーンの整備が進んでいますが、コロナ禍で多くの飲食店に、休業要請と支援はセットですよというように、ルールとマナーを守るのと自転車のレーン整備はセットだと思います。市民がマナーを守らずに、自転車のレーンが整備されていくと、自転車の逆走や、車道へのはみだしなどで自転車の問題は、つきません。「3 展望」

に市民が守るべきこととしても記載していただきたいです。

(委員)

フレーズ案が3つ並んでいて、そのなかで「ご機嫌な暮らしをみんなのものに」がダントツでいいと思います。

「1 受け継がれてきたもの」のなかに、言葉の表現に工夫は必要かと思うが、尼崎の物価の安さも暮らしやすさを支えていると思います。家賃や食品にしても、尼崎は他の地域で見ても安いなと感じます。そのあたりご検討いただきたいです。

(委員)

全般通して高齢者の視点があまりないなと思います。今後も高齢化率が高まり高齢者人口も増えていくので、高齢者もいきいきと生きがいを持って暮らせるとか社会参加ができるという視点も必要だと思います。

(部会長)

暮らしやすさのなかに、多様性も考えてほしいということかなと思います。

(委員)

あわせて暮らしやすさのなかに子どもも入れていただきたいです。

(委員)

暮らしやすさ、ご機嫌もそうですけど、主観的な表現だなと感じます。暮らしやすさやご機嫌になる条件は一人ひとり、年齢や個人の趣向で違って、多様性と関わることでもあるけど、伊丹なら安全安心なまち、監視カメラがあるので安心して暮らしてくださいと誰にとっても良いことですが、尼崎市にはだれにとってもは難しいかなと思います。多様性や包容力があるなかで、みんながそれぞれのご機嫌な暮らしをみつけていける、一律ではないけど、展望でもフレーズでも盛り込めればすてきなと思います。

(部会長)

事務局も息切れしていると感じていまして、後半になってくると分野横断といいながらも分野が偏っているので、そのあたりチェックしていただきながら、もう1回適切なフレーズを考えていただければと思います。

以 上